

令和6年度 学校評価自己評価表（最終）

三次市立三次小学校

【達成度】＝達成値／目標値×100 【評 価】④≥100，80≤③<100，60≤②<80，①<60											
領域	中 期 経営目標	短 期 経営目標	目標達成のための 主な方策	評価指標	目 標 値	中 間		年度末		結果と課題の説明	改善計画
						達成値	評価	達成値	評価		
						達成度		達成度			
確かな学力の育成	学力の定着・向上	基礎学力の向上	□朝のドリルタイムでは、認知機能強化のドリルを取り入れ、授業では集中して取り組む時間を設けて定着を図る。	◆単元末テストの「数と計算」領域の「知識・技能」の項目の平均正答率を7680以上にする。 ◆市学力到達度検査で平均正答率70%以上にする。	80%以上 70%以上	90.1% 120.1	A	88.8% 111.0 75.1% 107.2	A	平均正答率を80%以上にする目標を達成することができた。これまでの取組を継続している結果だと考えられる。前期に比べ達成値が下がっているのは、後期の学習内容の難易度が上がったためだと思う。目標値に達しているが、学年差や個人差は大きく、個別での対応が必要な児童がいる。 市学力到達度検査の算数の3～6年の平均は、70%以上と目標を達成することができた。また、全学年70%以上であった。日々の授業における授業改善や継続してきた取組が、結果につながったと考えられる。	引き続き、ドリルタイム等で学力補充を行ったり、授業始めに計算練習を行ったりして、基礎基本の力の定着を図るよう授業改善を進める。課題の大きい児童に対しては、個の見取りを行い、個別支援を行っていく。
		育成すべき資質・能力の向上	□「主体性」「協調性」「表現力」を意識した単元構成の工夫 □聴き合い、伝え合う授業づくりや自分の思いを伝えることができる学級風土の確立	◆総合質問質問紙（コミュニケーション能力、協調性、主体性）の項目で肯定的に答えた児童の割合を70%以上にする。	70%以上	75.3% 100.4	A	80.6% 115.1	A	3観点の平均は80%以上であった。主体性は87%で、協調性は78%、コミュニケーション能力は75%と、すべて目標の70%以上だった。 前期はコミュニケーション能力が低かったが、6ポイント以上向上している。総合的な学習の時間における探究的な学習の取組により友達との関わりが増えてきたことで向上したと考えられる。とはいえ、日々の児童の様子を見ると、自分の思いを伝えることに苦手意識をもっている児童も見受けられる。	引き続き、自分の思いなどを伝えても大丈夫という学級の雰囲気作りを行とともに、グループ活動等を通して、意見を言ったり聞いたり質問したりする経験を積めるよう、授業づくりを行う。
豊かな心の育成	社会性、自己認識の向上	生徒指導諸問題の未然防止	□挨拶および始業時間厳守の徹底 □いじめの根絶及び未然防止の取組	◆児童アンケートの評価において、「自分から挨拶ができる」児童の割合を75%以上にする。	75%以上	85.7% 113.6	A	89.5% 119.3	A	児童のあいさつに対する自己評価は比較的高い状況にある。児童会執行部を中心とした登校時の「あいさつ運動」や、「あいさつ名人の表彰」のように肯定的に評価する場を設けていることが効果的であったと考えられる。しかし、登校時の「あいさつ運動」の時以外の場面でのあいさつには課題が残る。	「あいさつ名人の表彰」のように肯定的に評価する場面は継続的に行う。 児童会熱血宣言の月目標にも取り入れながら、「いつでも」「どの場面でも」をキーワードにして、あいさつへの意識を高めていく。
		児童会活動の活性化	□児童会熱血宣言によるめあての設定と振り返り	◆熱血宣言達成率で全校平均85%以上 ◆総合質問紙調査（自己認識・社会性）80%以上	80%以上 75%以上	【熱血宣言】 93.7% 110.2 【質問紙】 85.9% 107.3	A	【熱血宣言】 80.3% 94.4 【質問紙】 89.3% 111.6	A	児童会熱血宣言については、執行部で月目標を設定し、毎月強化週間を決めて取り組むことができた。目標の内容によって結果は変わるが、比較的高い水準を維持できている。 総合質問紙調査については、ほとんどの学年で目標に近い数値には達している。しかし、「社会性」の内容に関しては、目標値を下回っている学年もある。学年に上がるにつれて、他の人と意見が違う時に自分の意見を発言できる児童が少ない傾向にある。	児童が同じ目標に向かって生活していけるように、毎月の児童会熱血宣言の取組を継続的に行う。 学級の中で安心して自分の意見が言えるような集団作りを行う取組を実施する必要がある。
健やかな体の育成	自律的な生活習慣の定着と体力の向上	基本的な生活習慣の充実	□生活づくり週間の取組 ・中学校定期試験期間中に生活づくり週間の取組（起床、就寝時刻・朝食摂取・メディアコントロール） □みよし学園健康教育部会の取組を中学校区で共有して実施する。	◆メディアコントロール実施達成率（生活づくり週間アンケート）80%以上	80%以上	87.4% 109.3	A	84.5% 105.6	A	メディアの長時間利用による体への影響やメディア以外の過ごし方の工夫について全校朝会で指導を行った。84.5%の児童が意識して生活し、自分で目標設定をしたり、家族でメディアの利用やメディア以外の過ごし方について考えたりする機会となった。 しかし、6月より11月の方が、就寝時刻や起床時刻が遅く、朝食摂取も減っている傾向があった。健康な生活をしていく上で、生活習慣を整えることの大切さやメディアの利用をコントロールする大切さを改めて指導し、保護者と連携して取組んでいく必要がある。	健康な生活づくりを意識し楽しんで取組めるよう工夫をし、継続して取組む。 また、長時間のメディア使用の体への影響、使い方やルール、家庭でメディア以外の過ごし方について保護者の協力が得られるように啓発していく。
		健康安全意識と体力の向上	□体育科、体力づくり運動の工夫と充実 ・主運動と関連づいた体づくり運動の計画実施 ・委員会等を利用した全校での体力づくりの取組	◆体力・運動能力調査（前年度の国・県平均以上の項目の増加） ◆児童の自己評価アンケートにおいて運動やスポーツが好き、体育の授業が楽しいと答える児童の割合を80%以上にする。	80%以上	55.6% 992.8 アンケート未実施	A	運動が好き 91.0% 113.8 授業が楽しい 94.8% 118.5	A	2月に実施したアンケートでは、運動が好きな児童の割合が91.0%、体育の授業が楽しい児童の割合が94.8%と高く、楽しんで運動していることがわかった。 体育の授業では、グラウンドの制限の中、場の工夫をして十分な運動量を確保する工夫、なわとびカードやねこちゃん体操の実施などに取組んだ。また、体育委員会は、遊び方の工夫の掲示、グラウンドや体育館使用を放送で呼びかける等、休憩時間に積極的に運動するきっかけとなった。	運動能力の向上とともに、運動が苦手な児童にも運動の楽しさを味わわせるために、体力づくり運動を継続して行ったり、スモールステップで感覚・技能を身に付けたりさせる。 また、できたことやチャレンジしている姿を積極的に褒め、自信を持って活動できるよう支援していく。 運動会や児童会行事で達成感や仲間との協力することで得た成功体験などを今後、児童会や体育委員会と連携し活動に繋げる。
信頼される学校	コミュニティ・スクールとしての関心度・信頼度の向上	小中一貫教育の充実・発信	□各学年1回以上、地域・家庭と連携したキャリア教育の実施	◆各学年1回以上、地域・家庭と連携したキャリア教育を実施し、学校・学級だより等やHPにおいて情報発信をする。	各学年1回以上	100% 100	A	100% 100	A	地域・家庭と連携したキャリア教育を計画している。これまでに、地域・家庭と連携した内容を見直しながら、実施済。内容の変更はあったが、各学年1回以上実施した。	地域・家庭と連携したキャリア教育の実施内容を、来年度に向け改善していく。
		地域から学校への満足度・信頼度の向上	□学校・学級だより等やHPにおいての情報発信	◆保護者アンケートで本校教育に対する肯定的評価の割合を80%以上にする。	80%以上	87.3% 109.1	A	92.0% 115	B	保護者、地域へ学校、学級での取り組みの様子を伝えるため、学校・学級だよりの発行に取り組んだ。HPの更新は、計画的にできていなかった。	学校、学級での取り組みの様子を伝えるため、計画的に学校・学級だよりの発行、HPの更新をし、地域・保護者へ情報発信を行っていく。